

新小2～新小4 春期講習生のみなさんへ

1 授業のための準備物

持ち物

① 筆箱

- ・ えんぴつ 4～5本 (シャープペンシルでもかまいません)
 - ・ 消しゴム (予備もあるとよいでしょう)
 - ・ 赤ペン (赤えんぴつ)
 - ・ マーカーペン (蛍光ペン) はあると便利です。
- なお、高級な文具の持参はご遠慮ください。

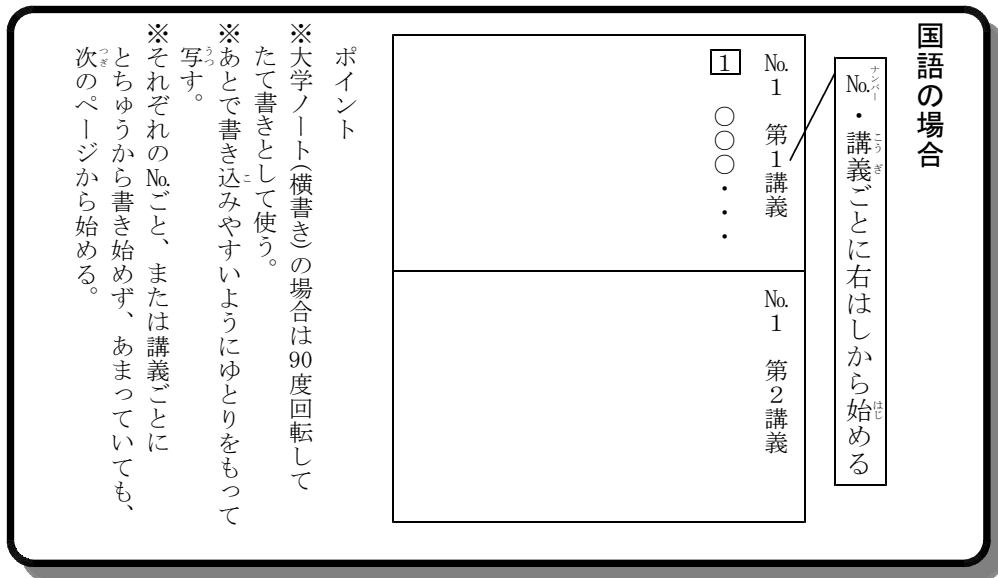
② ノート

ノートを必ず持ってきてきましょう。ノートのサイズはB5サイズのものを使いやすいでしょう。

国語……字を小さく書く人は大学ノートの横書きを、90度回転してたて書きとして使います。

字を大きく書く人はたて書きのノート全面を使うとよいでしょう。

算数・理科……特に指定はありませんが、行数が多く、一行の幅がせまいものはあまりおすすめしません。



希学園では希学園算数科が工夫をこらした「希学園オリジナルノート」〔表紙：青・オレンジ・緑・グレー、有料〕を販売しております。どの教科にもご使用いただけますが、特に算数の授業に最適な形態となっております。ぜひご購入いただき、授業にご活用ください。

2 希学園について

- ① トイレに行っておきましょう。
- ② 持ち物の確認をし、えんぴつをけずるなどして準備をしましょう。
- ③ 忘れ物をしたときは、事務所で事務所に人に、何を忘れたのかははっきり言い、事務所でかりましょう。友だちにかけてはいけません。

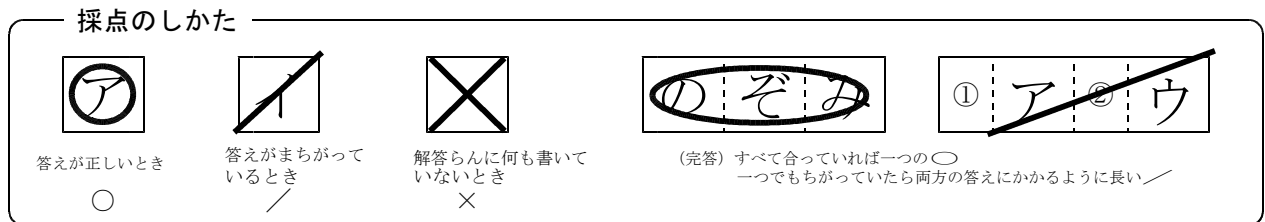
3 授業中は

- ① 先生の方を見て話をよく聞きましょう。
- ② 手を挙げるときはだまってまっすぐ挙げましょう。
- ③ 先生が黒板に字を書き始めたら、自分もノートにすぐに写し始めましょう。
- ④ 気分がわるくなったり、どうしてもトイレに行きたくなくなったりしたら、手を挙げましょう。

(両面をご覧ください)

4 テスト中は

- ①テスト用紙が配られたら、自分の分をとって、のこりを後ろの人に渡しましょう。
- ②名前を必ず漢字でいねいに書きましょう。
- ③先生に「始め」と言われるまでテスト用紙は裏を向けたままにしましょう。
- ④テストが始まったら、できる問題から解きましょう。もし、わからない問題があれば、とばして後で解くようにすると時間をうまく使えます。
- ⑤答えはすべて解答らんに書きましょう。
- ⑥先生に「終わり」と言われるまで、よく見直しをしておきましょう。
- ⑦質問があれば、静かに手を挙げましょう。
- ⑧先生に「終わり」と言われたら、すぐに消しゴムやえんぴつを筆箱にしまい、赤ペン(赤えんぴつ)だけ出して待ちます。筆箱は**かばんの中に**しまいます。
- ⑨採点をするときは赤ペン(赤えんぴつ)でいねいに、正しい答えには○、まちがった答えには／、解答らんにも何も書いていないときには×をつけましょう。赤ペン以外のものは使ってはいけません。



【新小2・新小3のみなさんへ】 確認テストを自分で採点します。

【新小4のみなさんへ】 実力テストを相互採点します。下記の注意点に気をつけましょう。

- ①先生の指示にしたがって、解答用紙だけを残して、問題用紙はすべて机の中に入れてください。
- ②解答用紙を左右で交換します。
- ③他の人の解答用紙を採点するので、いねいにあつかわってください。
- ④採点者の氏名を書くところに名前を書きましょう。
- ⑤何も書かれていない解答らんに、「×」をつけましょう。
- ⑥模範解答が配られたら、採点を始めてください。「○」、「／」、「×」以外のことを書いてはいけません。また、赤ペン(赤えんぴつ)以外のものを使用しないでください。
- ⑦採点でわからないことがあれば手を挙げて質問します。
- ⑧採点が終わったら、点数を計算して、得点を記入します。
- ⑨得点を記入したら、模範解答を机の中に戻します。
- ⑩先生の指示にしたがって、解答用紙を本人に戻します。
- ⑪先生に名前を呼ばれたら、大きな声で自分の得点を言います。

5 帰るときは

- ①駅やバス停まで先生の引率で友だちと帰ります。きちんとならんで先生の指示にしたがいましょう。おうちの方が希学園までおむかえに来られる場合は、待ちあわせ場所をしっかりと約束しておきましょう。
- ②忘れ物をしないようにしましょう。帰るときにはもう一度机の中を忘れ物がないか確認しましょう。雨の日はおかさなども忘れないように気をつけましょう。
- ③駅のホームや電車内、バス停・バス車内で走り回ったり、大きな声でしゃべったりしてはいけません。

6 家に帰ったら

- ①テキスト・ノートを見て、その日に習ったことをよく思い出してみましょう。
- ②宿題を早めに始めましょう。すべてできなくてもよいですが、授業で習ったところはできるようにしておきましょう。
- ③わからないものはずっと考えず、×にして、答えや解説をよく読んでやり直しをしっかりとしましょう。
- ④国語の文章は、問題を解いてからも、別の日にくり返し読んでみましょう。

※そのほか、わからないことがあれば、先生や事務所の人に何でもたずねてください。

以上

(両面をご覧ください)

(4)